

【学校教育目標】

人間性豊かで、主体的に生きるたくましい児童の育成

【本校の課題】

- ・ 体力テストの「立ち幅跳び」と「ソフトボール投げ」では、6学年中4学年で全国平均を上回っているが、「長座体前屈」は6学年中男子5学年女子3学年で県平均を下回り、「20mシャトルラン」では男女とも4学年で県平均を下回っている。
- ・ どの学年でも、運動を積極的に行う児童とそうでない児童の2極化が見られる。
- ・ 休み時間の遊びがやや固定化しており、多様な遊びができていない。

【現状】

休み時間は、外で遊ぶ児童が多いが、遊びの種類は学年によって特徴があり、低学年はおにごっこや遊具遊びが多く、中学年・高学年はドッジボールやサッカーが中心となっている。その一方で、休み時間に教室などで過ごし、外に出ない児童も少数見られる。

週に1度全校体育の時間を取っていたが、感染症対策のため、実施できていない。体育の時間に短縄跳び・長縄跳び・持久走などの運動を行っているが、運動量としては、まだまだ不十分である。器械運動の専門の指導者を招へいし、跳び箱運動を各学年1～2時間程度指導してもらっていたが、現在は実施できていない。

## 取り組み

個人のできる運動の奨励

コロナウイルス感染症対策のため、縄跳びやストレッチなどの個人のできる運動を奨励する。そのために、縄跳び、持久走、ストレッチなどのチャレンジカードを配布することで、運動に取り組むきっかけとする。その際、個人目標を設定して、目標達成できた児童を、表彰する。

運動しやすい環境づくり

安全・運動委員会の活動として、運動場に広めのドッジボールコートや縄跳びボードを常設することで、運動に取り組むしやすい環境をつくる。

また、苦手な児童のために、柔らかいドッジボールを各クラスに配布して、遊ぶ児童を増やせるようにする。

体育授業の改善

教員研修で、コロナウイルス感染症対策を意識しながらの運動量の確保、学習課題、振り返り、ICT活用などの視点から、授業改善を図る。また、体育授業の中に体力づくりタイムを設定し、筋力、敏捷性、全身持久力のアップにつながる運動を実施できるようにする。

【目標】

- ・ 体力テストの結果において、全学年の全ての項目で、昨年以上の記録を目指す。
- ・ 個人のできる運動の推奨により、進んで体を動かす習慣がつくようにする。
- ・ 体育の授業において、しっかり体を動かして体力をつけるとともに、目標を持ち、励まし合いながら活動し、振り返りを行う学習スタイルを身につける。